

○（遍昭心院塔頭）実法院は林泉広くして、東北の風景を湛て雪の日の眺望あり、特に蓮池ありてみな月の花盛には香芬々として紅白色をあらそひ、其外爪紅本紅唐蓮などの名草多し。これを見んとて朝日の出るを待て群来る騷人歌よみ詩作りて、水芙蓉を賞ずる事和漢に異ならず。越女が歌、妃子が歩、芳氣十里に聞え花の君子とも賞ず、蓮を愛する事予に同じき者は何人ぞやと茂叔はつぶやきける。

采 蓮 曲

采^ラ蓮^ノ溪^ニ上^リ女^ヲ。

祇^ニ向^テ花^ノ多^ク処^ニ。

花^シ多^シ人^ノ不^レ見^ル。

栲

亭

花^ノ底^ニ聞^ク花^ノ語^ヲ。

入^レ花^ニ入^リ見^ル。

出^テ花^ヲ始^メ見^ル花^ヲ。

乃^チ知^ル薄^シ情^ノ子^ヲ。

同

只^ス是^ル宿^ル他^ノ家^ニ。

蓮^ハの香^ハや水^ハをはなる、莖^ハ二寸

蕪

村

蓮^ハにのる朝日涼しく神の国

籬

島